

「BRAIN and NERVE」第74巻 総目次

2022 年（第 1～12 号）

頁数は通巻数、（ ）内は号数

〔特 集〕

〈脳神経内科医のキャリアパスとリーダーシップ〉

脳神経内科医のキャリアパスとリーダーシップ	
……………下畑 享良・	5(1)
臨床力とは何か？ — どのように身につけるか？	
……………福武 敏夫・	7(1)
文献の探し方、読み方、まとめ方…渡辺 宏久・	10(1)
症例報告の書き方……………阿部 康二・	14(1)
科学的なプレゼンテーションと発表の仕方	
……………松島 理明・矢部 一郎・	17(1)
脳神経内科後期研修医が習得すべきノンテクニカルスキル	
……………安藤 哲朗・福武 敏夫・	22(1)
大学院で何をどう学ぶか……………勝野 雅央・	25(1)
海外留学で学ぶべきこと……………関島 良樹・	29(1)
コロナ禍での臨床留学……………原田 陽平・	33(1)
コロナ禍における基礎研究留学……………西山 修平・	36(1)
女性医師のキャリアパスとリーダーシップ — 市中病院	
……………饗場 郁子・	40(1)
女性医師のキャリアパスとリーダーシップ — 大学病院	
……………三澤 園子・	45(1)
脳神経内科で開業するためのキャリアパスは存在するか	
— ロールモデルとしての医師会での活動	
……………目々澤 肇・	48(1)
キュアからケアへ — 在宅診療医へのキャリアパス	
……………渡辺 良・	51(1)
臨床研究・治験 PI のキャリアパス	
……………桑原 聡・	55(1)
臨床をベースとする基礎研究者のキャリアパスとリーダー	
シップ……………岡澤 均・	59(1)
脳神経内科医にとっての医系技官のキャリア	
……………桑原 宏哉・	63(1)
製薬企業で働く医師としてのキャリアパス	
……………藤本 陽子・	67(1)
大学発ベンチャーの現状と設立のためのキャリア	
……………山本 卓・横田 隆徳・	71(1)
〈温度を感じる脳と身体の科学〉	
温度を感じるしくみ…富永 真琴・加塩麻紀子・	127(2)

ミクログリアによる脳内温度情報の感知と神経回路再編成	
……………小野寺純也・池谷 裕二・小山 隆太・	133(2)
環境ストレスに応じた体温調節の中枢神経ネットワーク	
……………中村 和弘・	143(2)
熱産生脂肪細胞を誘導するエピゲノム酵素リン酸化スイッチの解明……………酒井 寿郎・	151(2)
体温の日内リズム制御における概日時計機構の役割	
……………三宅 崇仁・土居 雅夫・	159(2)
休眠・冬眠に関わる神経回路と人工冬眠技術への展望	
……………櫻井 武・	167(2)
体温と睡眠	
……………石原あすか・朴 寅成・徳山 薫平・	173(2)
〈中枢性自律神経障害 update〉	
中枢自律神経線維網の形態と機能に関する最近の知見	
……………山元 敏正・	215(3)
脳血管障害と自律神経障害……………伊藤 義彰・	223(3)
純粹自律神経不全症の病理	
……………村山 繁雄・齊藤 祐子・	231(3)
レヴィ小体病の自律神経障害……………中村 友彦・	241(3)
多系統萎縮症と自律神経障害……………榊原 隆次・	249(3)
タウオパチーにおける自律神経障害の捉え方	
……………古賀 俊輔・饗場 郁子・	257(3)
三叉神経・自律神経性頭痛……………古和 久典・	263(3)
てんかんと自律神経……………川合 謙介・	271(3)
睡眠障害と自律神経障害	
……………角 幸頼・角谷 寛・	279(3)
〈脳科学リテラシーを高めるために〉	
科学論文の書き方・査読のしかた — ビギナーのための総論として……………神田 隆・	319(4)
うまい英語で世界一流誌に採択される医学論文の書き方	
……………植村 研一・	329(4)
査読対応における科学的推論の論理性	
……………高田 則雄・三村 将・	335(4)
生物医学研究の基盤としての医療統計学	
……………村上 義孝・竹内 由則・	341(4)
神経活動を解釈するということ — 多視点で見る脳活動の関係性……………虫明 元・	353(4)

機能的磁気共鳴画像法による脳活動の解釈をめぐって
 ……松元 健二・361(4)

科学研究と発表のリテラシー……酒井 邦嘉・369(4)

〈次の一手 — 神経筋疾患難治例をどのように治療するか〉

標準的治療で炎症を十分に抑止できない結核性髄膜炎
 — 治療抵抗性の結核性髄膜炎…雪竹 基弘・421(5)

標準的治療で炎症を十分に抑止できない結核性髄膜炎
 — どのように考え、どのように治療していくか
 ……安部 鉄也・福迫 俊弘・427(5)

ステロイドパルス・IVIgで回復が思わしくない抗NMDAR
 脳炎 — 積極的免疫療法のエビデンスと実践
 ……原 誠・中嶋 秀人・433(5)

ステロイドパルス・IVIgで回復が思わしくない抗NMDAR
 脳炎 — セカンドライン免疫療法と予後予測
 ……木村 暁夫・443(5)

ステロイド抵抗性の中枢神経サルコイドーシス — 免疫抑
 制薬および生物学的製剤の使用…黒田 宙・449(5)

ステロイド抵抗性の中枢神経サルコイドーシス — 早期か
 らの多剤併用の必要性
 ……藤澤美和子・神田 隆・455(5)

耐えられない有痛性ジストニアを伴うパーキンソン病
 — パーキンソン病の疼痛分類と治療選択
 ……梶山 裕太・望月 秀樹・462(5)

耐えられない有痛性ジスキネジアを伴うパーキンソン病
 — 標準的治療法とその後のTips
 ……武田 篤・468(5)

月14回以下のトリプタン服用では仕事にならない片頭痛
 — 薬剤の使用過多による頭痛(薬物乱用頭痛:MOH)
 ……永田栄一郎・474(5)

月14回以下のトリプタン服用では仕事にならない片頭痛
 — どのように予防療法を選択するか
 ……石崎公郁子・竹島多賀夫・479(5)

標準的治療で再発が抑制できない多発性硬化症 — 難治性
 MS ……竹内 英之・485(5)

標準的治療で再発が抑制できない多発性硬化症 — 再発抑
 制困難なRRMS…新野 正明・490(5)

治療介入にもかかわらず進行が抑止できない二次性進行型
 多発性硬化症 — 治療抵抗性二次性進行型多発性硬化症
 ……越智 博文・496(5)

治療介入にもかかわらず進行が抑止できない二次性進行型
 多発性硬化症 — 疾患修飾薬を用いた治療の現状と展望
 ……大橋 高志・505(5)

3種類のmainstay治療に反応しないCIDP — 適切な寛解
 導入療法と治療効果判定…海田 賢一・510(5)

3種類のmainstay治療に反応しないCIDP — 鑑別ポイン

トと治療戦略……飯島 正博・517(5)

ステロイドで急性期病勢進行が抑止できないEGPAによ
 る末梢神経障害 — 寛解導入療法、寛解維持療法の選択
 ……竹下 幸男・525(5)

ステロイドで急性期病勢進行が抑止できないEGPAによ
 る末梢神経障害 — 新規治療薬である分子標的薬(メボ
 リズマブ)はどのように使用すればよいか
 ……服部 直樹・531(5)

ステロイド・IVIgで筋力回復が不良な皮膚筋炎・壊死性筋
 症 — 難治性の皮膚筋炎・壊死性筋症
 ……杉江 和馬・537(5)

ステロイド・IVIgで筋力回復が不良な皮膚筋炎・壊死性筋
 症 — 全身を診察して的確な診断、評価のうえで治療を
 行う…富満 弘之・545(5)

診断を説明しただけでは改善しない機能的運動異常症
 — 病気を診るのではなく、患者を診よ
 ……藤本 健一・553(5)

診断を説明しただけでは改善しない機能的運動異常症
 — 脳神経内科医の役割…富山 誠彦・559(5)

統合失調症に対する抗精神病薬治療中に出現した遅発性ジ
 スキネジア — 遅発性ジスキネジアの治療
 ……野元 正弘・565(5)

統合失調症に対する抗精神病薬治療中に出現した遅発性ジ
 スキネジア — 最新の知見に基づいた遅発性ジスキネジ
 アへの対応…阪田麻友美・伊東 秀文・571(5)

ボツリヌス治療で十分な治療効果が得られない局所性・分
 節性ジストニア — ボツリヌス、手術、ボツリヌス
 ……目崎 高広・575(5)

ボツリヌス治療で十分な治療効果が得られない局所性・分
 節性ジストニア — 第一選択のボツリヌスが有効でない
 が、どうする…野村 哲志・581(5)

抗真菌薬の十分な治療効果が得られない、あるいは薬剤に
 よる副作用が出現し継続が困難なクリプトコッカス髄膜
 炎 — 治療における11の論点
 ……石原 正樹・中嶋 秀人・588(5)

抗真菌薬の十分な治療効果が得られない、あるいは薬剤に
 よる副作用が出現し継続が困難なクリプトコッカス髄膜
 炎 — 治療困難に陥らないためのマネジメントと難治例
 への脳室内抗真菌薬投与
 ……佐藤 充人・関島 良樹・600(5)

内服治療で十分な効果が得られない小径線維ニューロパ
 チー — 小径線維ニューロパチーの原因診断と治療選択
 ……山崎 亮・608(5)

内服治療で十分な効果が得られない小径線維ニューロパ
 チー — 小径線維ニューロパチーの診断と治療

……………鈴木千恵子・ 614(5)	
脳主幹動脈の動脈硬化がびまん性かつ高度で、複数の抗血小板薬投与によっても再発を繰り返す脳梗塞 — 抗血小板薬投与中に再発した脳梗塞症例	
……………出口 一郎・ 621(5)	
脳主幹動脈の動脈硬化がびまん性かつ高度で、複数の抗血小板薬投与によっても再発を繰り返す脳梗塞 — 繰り返す脳梗塞例に対する対応	
……………鈴木健太郎・木村 和美・ 629(5)	
標準的な内科治療でなかなか改善しない本態性振戦 — 外科治療が行えない場合……………山脇 健盛・ 637(5)	
標準的な内科治療でなかなか改善しない本態性振戦 — 外科治療による振戦の治療	
……………佐々木達也・伊達 勲・ 645(5)	
複数の医療機関を経て受診した筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群 — 診断と治療、そして研究	
……………佐藤和貴郎・ 652(5)	
複数の医療機関を経て受診した筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群 — 診断と治療の要点……………下村登規夫・ 660(5)	
標準治療で改善しない膠芽腫 — 予後不良な要因と次の一手……………成田 善孝・ 668(5)	
標準治療で改善しない膠芽腫 — 標準治療と個別化治療	
……………今井亮太郎・佐々木 光・ 677(5)	
カブグラ症候群を含む妄想性誤認症候群が強いレビー小体型認知症の高齢者 — レビー小体型認知症に伴う重度の精神症状の治療やケア……………船山 道隆・ 685(5)	
カブグラ症候群を含む妄想性誤認症候群が強いレビー小体型認知症の高齢者 — 脳神経内科医の立場から対応と介入のあり方を考える……………池田 将樹・ 692(5)	
難治性の起立性低血圧を認めるパーキンソン病患者 — 起立性低血圧に関わる一般項目と、自験例を通してわかる注意点……………石原 資・ 700(5)	
難治性の起立性低血圧を認めるパーキンソン病患者 — 早期診断に向けた症状の見極め方と治療戦略	
……………坪井 義夫・ 708(5)	
〈脳神経内科医に求められる移行医療〉	
オーバービュー……………望月 秀樹・ 735(6)	
移行医療の現状と課題 — 脳神経内科の立場から	
……………望月 葉子・ 741(6)	
移行医療の現状と課題 — 小児神経科の立場から	
……………藤井 達哉・ 747(6)	
移行医療の外来診療……………崎山 快夫・ 753(6)	
千葉県移行期医療支援センターにおける取り組み	
……………桑原 聡・ 759(6)	
移行医療の支援体制……………掛江 直子・ 763(6)	

脳性麻痺……………荒井 洋・ 771(6)	
小児期発症てんかん患者の移行医療	
……………阿部 裕一・ 777(6)	
子どもの権利擁護に根差した移行医療 — 発達障害を中心に……………田中 恭子・ 783(6)	
運動異常症を主体とした神経難病……………佐々木征行・ 789(6)	
筋ジストロフィー……………松村 剛・齊藤 利雄・ 795(6)	
〈COVID-19 — 脳神経内科医が診るための最新知識 2022〉	
Neuro COVID — 現状と課題……………下畑 享良・ 837(7)	
COVID-19 神経合併症 — (1)脳炎と脳症 update	
……………小野 大介・三條 伸夫・ 845(7)	
COVID-19 神経合併症 — (2)脳血管障害 update	
……………吉本 武史・豊田 一則・ 853(7)	
COVID-19 神経合併症 — (3)運動異常症 update	
— COVID-19 感染症で見られる失調症、不随意運動症、発作性運動異常症……………高橋 牧郎・ 861(7)	
COVID-19 神経合併症 — (4)末梢神経障害と筋障害 update……………本田 真也・神田 隆・ 867(7)	
COVID-19 神経合併症 — (5)嗅覚・味覚障害 update	
……………三輪 高喜・ 873(7)	
Long COVID — (1)病態と対策	
……………渡辺 宏久・島 さゆり	
水谷 泰彰・植田 晃広・伊藤 瑞規・ 879(7)	
Long COVID — (2)コロナ後遺症外来の現状	
……………高尾 昌樹・大平 雅之・ 885(7)	
神経疾患患者に対するワクチンと副反応 — (1)総論	
……………中嶋 秀人・ 893(7)	
神経疾患患者に対するワクチンと副反応 — (2)神経免疫疾患……………小川 諒・中島 一郎・ 899(7)	
神経疾患患者に対するワクチンと副反応 — (3)ワクチン接種後の血小板減少を伴う血栓症 (TTS)	
……………八木田佳樹・ 905(7)	
コロナパンデミック禍の医師のバーンアウト	
……………小寺 志保・木村百合香・久保 真人・ 911(7)	
〈迷走神経の不思議〉	
迷走神経の生理学 — 基礎研究の歴史から現在への展開	
……………鈴木 郁子・ 955(8)	
マウス迷走神経活動の電気生理学的測定方法	
……………谷田 守・ 959(8)	
血管迷走神経性失神……………古川 俊行・ 965(8)	
迷走神経と腸脳相関 — 迷走神経反射による制御性 T 細胞誘導機構を中心に	
……………金井 隆典・寺谷 俊昭・ 971(8)	
パーキンソン病における α シヌクレイン異常凝集体は迷走神経を介して上行する	

……………大野 欽司・平山 正昭・ 979(8)

薬剤抵抗性てんかんに対する迷走神経刺激治療

……………杉山 一郎・福村麻里子

小杉 健三・戸田 正博・ 985(8)

経皮的耳介迷走神経刺激の臨床応用

……………山本 貴道・ 991(8)

うつ病に対する迷走神経刺激

……………吉野 敦雄・岡本 泰昌・山脇 成人・ 997(8)

ホップ由来苦味酸による脳腸相関活性化 — 食成分を通じた迷走神経刺激……………阿野 泰久・1003(8)

ポリヴェーガル理論 — その概要と臨床的可能性

……………花澤 寿・1011(8)

〈動的環境への適応系としての歩行〉

呼吸・歩行の central pattern generators システムと東洋系 bodywork による医療応用の可能性 — 錐体外路系・体幹前進運動システムを考える……………貫和 敏博・1053(9)

ドッグスポーツ・アジリティにおけるロコモーション

……………日暮 泰男・1061(9)

大脳基底核による姿勢と歩行の調節機構 — パーキンソン病における病態生理メカニズム

……………高草木 薫・高橋 未来

福山 秀青・野口 智弘・千葉 龍介・1067(9)

マウス歩行リズムの生成機構と神経機構

……………木津川尚史・広兼浩二朗・1081(9)

大脳皮質による歩行中のステップの制御 — 障害物を回避するために……………中島 敏・1087(9)

ニホンザルの四足歩行と二足歩行に伴う姿勢制御

……………中俣 克己・望月 圭・日暮 泰男・1095(9)

ニューロリハビリテーションからみた適応的歩行

……………森岡 周・1101(9)

人工神経接続を用いた脳・脊髄損傷後の身体運動機能の再建……………田添 歳樹・西村 幸男・1111(9)

脊髄損傷への iPS 細胞を用いた新規治療法

……………近藤 崇弘・岡野 栄之・1117(9)

〈ウイルス性脳炎・脳症 2022〉

急性弛緩性麻痺……………細矢 光亮・1153(10)

単純ヘルペス脳炎後の自己免疫性脳炎 — 臨床像, 病態, 診断と治療……………原 誠・中嶋 秀人・1163(10)

水痘帯状疱疹ウイルスによる中枢神経障害

……………根本 壤・神田 隆・1171(10)

進行性多巣性白質脳症の現況……………雪竹 基弘・1179(10)

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) と SFTS 脳症

……………高橋 徹・1189(10)

〈RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害〉

RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害 — 疾患概念の確立の

経緯と臨床的多様性……………吉田 邦広・1237(11)

RFC1 遺伝子の機能と変異

……………宮武 聡子・松本 直通・1247(11)

Cerebellar ataxia with neuropathy and vestibular areflexia syndrome (CANVAS) の神経病理所見

……………山田 光則・1257(11)

前庭機能障害……………青木 光広・丸田 恭子

アルマンスール亜千夢・1261(11)

慢性咳嗽と機序……………土井 宏・田中 章景・1267(11)

RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害と小脳性運動失調

……………安藤 匡宏・高嶋 博・1273(11)

ニューロパチーからみた RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害……………大崎 裕亮・和泉 唯信・1281(11)

RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害における運動ニューロン障害……………宮地 洋輔

土井 宏・田中 章景・1287(11)

〈映画を観て精神・神経疾患を知る〉

嗜眠性脳炎 — 『レナードの朝』……………神田 隆・1327(12)

『アリスのままで』にみる遺伝子診断の重さ

……………安東由喜雄・1331(12)

映画にみる認知症……………三村 将・1335(12)

抗 NMDA 受容体脳炎 — 『エクソシスト』, 『8 年越しの花嫁 奇跡の実話』, 『彼女が目覚めるその日まで』

……………亀井 聡・1346(12)

…First Do No Harm — 薬剤抵抗性てんかん

……………甲田 一馬・松本 理器・1350(12)

副腎白質ジストロフィー『ロレンツォのオイル／命の詩』

……………山脇 健盛・1354(12)

慢性外傷性脳症 — 『コンカッション』

……………下畑 享良・1358(12)

『ビューティフル・マインド』の異教教的鑑賞ガイド

……………村松 太郎・1362(12)

映画『ジキル&ハイド』と解離性同一性障害 — 自己分裂の不安に立ち戻る……………林 直樹・1366(12)

親友『レインマン』……………酒井 邦嘉・1371(12)

吃音 — 『英国王のスピーチ』にみる発話機能の理解

……………虫明 元・1375(12)

『カッコーの巣の上で』にみる精神・神経疾患

……………高尾 昌樹・1379(12)

ALS と映像作品……………荻野美恵子・1384(12)

『震える舌』破傷風 — 50 年前の医療現場と家族の心情描写……………吉沢 和朗・1388(12)

ハンセン病 — 『砂の器』……………松原 四郎・1392(12)

『ほんとうのジャクリース・デュ・プレ』 — 天才チェリストと多発性硬化症……………王子 聡・1395(12)

『潜水服は蝶の夢を見る』から患者の気持ちを考える ……………鈴木健太郎・1399(12)	
脊髄小脳変性症 — 『1 リットルの涙』 ……………佐々木秀直・1402(12)	
筋ジストロフィー『こんな夜更けにバナナかよ』 ……………尾方 克久・1405(12)	
ポンベ病 — 『小さな命が呼ぶとき』 ……………大矢 寧・1409(12)	
〔総 説〕	
小分子のリピーター RNA 毒性に対する動物モデルでの効果 ……………中谷 和彦・ 85(1)	
「死ぬ権利 (the right to die)」にまつわる 4 つの医療行為 — 米国における現状とその医療倫理的背景 ……………植村 健司・ 181(2)	
国際脳ヒト脳 MRI 研究プロジェクトによる精神疾患の病 態解明……………小池 進介 田中 沙織・林 拓也・ 285(3)	
恐怖記憶の制御基盤……………喜田 聡・ 377(4)	
WHO 脳腫瘍分類 2021 第 5 版 — 主な変更点 ……………小森 隆司・ 803(6)	
異常型タウの構造多型は多様なタウオパチー病理の形成に 寄与する……………樽谷 愛理・長谷川成人・ 919(7)	
てんかん治療におけるペランパネルの臨床成績と特性に基 づく治療選択……………赤松 直樹 兼本 浩祐・前原 健寿・ 927(7)	
「人工知能 (AI) による筋病理判読アルゴリズム」の開発 ……大久保真理子・壁谷 佳典・西野 一三・1019(8)	
大脳皮質の領野間連合回路の形成機構 ……………岡 雄一郎・1125(9)	
片頭痛の新規治療薬 — from bench to bedside ……………加藤 裕司・1197(10)	
欠乏・過剰の神経疾患 — 古くて新しいビタミン関連疾患 ……………大平 雅之・1205(10)	
脳磁計開発の黎明期 — 超伝導センサから室温センサへ ……………中里 信和・1295(11)	
レム睡眠の開始機構 — 睡眠周期の生成に関するドーパミ ンと扁桃体の新たな役割……………長谷川恵美・1303(11)	
〔原 著〕	
痙性斜頸患者に対する B 型ボツリヌス毒素製剤の安全性 および有効性……………梶 龍児 遠藤 亮・石井 美佳・ 93(1)	
〔症例報告〕	
脊索腫様膠腫と鑑別を要した第三脳室限局型 <i>BRAF</i> ^{V600E} 変 異陽性頭蓋咽頭腫の 1 例 ……………小林 尚平・山崎 文之・児島 正人	

高安 武志・高野 元気・米澤 潮 田口 慧・檜山 英三・木下 康之・ 189(2)	
急速に嚢胞が拡大して出血発症した成人 Astroblastoma の 1 例……………奥 真一朗・山崎 文之・児島 正人 高安 武志・高野 元気・米澤 潮 田口 慧・檜山 英三・杉山 一彦・ 385(4)	
初期に失声が見られ発語特徴が aphemia に一致した左利き の右病変によるブローカ失語例 ……………落合郁紀子・板東 充秋・角南 陽子 宮腰 夏輝・清川由香里・磯崎 英治・ 393(4)	
高血圧による一過性の神経血管圧迫症候群をきたした遺残 性三叉動脈と遺残性舌下動脈の併存例 ……………朝山 康祐・林 健太郎 金井由貴枝・田原 奈生・加藤 芳恵 安部 哲史・三瀧 真悟・長井 篤・ 811(6)	
新型コロナワクチン (BNT162b2) 接種後にギラン・バレー 症候群を生じた 71 歳女性例 ……………押部奈美子・本田 真也・古賀 道明 佐藤 亮太・大石真莉子・神田 隆・1025(8)	
角状手を呈した平山病の 1 例 — 脊髄性角状手 (main en corne spinale) ……………北 耕平・1211(10)	

〔Case Report〕

Gastric Ulcer Caused by Contact with a Bumper Type Gastrostomy Tube in Amyotrophic Lateral Sclerosis: A Case Report …………… Kenjiro Kunieda・Yuichi Hayashi Hiroyuki Murase・Naoki Yamahara Takuya Kudo・Jun Takada Akio Kimura・Takayoshi Shimohata・ 291(3)	
Acemetacin, a Prodrug of Indomethacin, Is Effective for Treatment of Hemicrania Continua: A Japanese Case Report …………… Shoji Kikui Hanako Sugiyama・Junichi Miyahara Kuniko Ota・Daisuke Danno Yoshihiro Kashiwaya・Takao Takeshima・1215(10)	

〔神経画像アトラス〕

特徴的な MRI 所見で診断した無症候性 multinodular and va- cuolating neuronal tumor (MVNT) の 1 例 ……………本郷 卓・中島 英樹・岸崎 穂高 高崎 盛生・岡田 務・藤本 康裕・ 817(6)	
---	--

〔LETTERS〕

脳をみる「窓」としての網膜の可能性 ……………森 望・ 824(6)	
レンブラント絵画の中の「脳と神経」 ……………森 望・1040(8)	

【連 載】

〈脳神経内科領域における医学教育の展望〉

— Post/with コロナ時代を見据えて〉

- (5) 基礎医学における神経解剖学／神経科学教育の現状と今後の課題……………山口 瞬・106(1)
- (6) Post/with コロナ時代に求められる卒前臨床実習 — 診療参加型実習・学生評価……………荒木 信之・横尾 英孝・伊藤 彰一・195(2)
- (7) オンライン臨床推論指導……………鋪野 紀好・塚本 知子
笠井 大・生坂 政臣・296(3)
- (8) オンライン神経診察の教育……………下畑 享良・401(4)
- (9) Post/with コロナ時代に求められる卒後臨床研修……………高橋 弘明・717(5)
- (10) DX 時代の病院と臨床教育の実践……………黄 世捷・伊佐早健司・819(6)
- (11) Dx 時代の地域医療と臨床教育 — 変わること、変わらないこと……………高村 昭輝・939(7)
- (12) オンライン多職種連携教育……………河内 泉・1031(8)
- (13) 医療安全とシミュレーション教育……………富田 泰彦・1135(9)
- (14) 脳神経内科における研究者育成教育……………桑原 聡・1221(10)
- (15) 大学間連携によるオンライン臨床実習の試み……………吉倉 延亮・原 一洋・橋詰 淳
坪井 崇・下畑 享良・勝野 雅央・1309(11)
- (16) (最終回) Post/with コロナ時代で見えてくる海外の動向とわが国の方向性 — 医学教育のレビューと連載のまとめ……………西城 卓也・今福輪太郎・下畑 享良・1417(12)

〈スペシャリストが薦める読んでおくべき名著〉

— ニューロサイエンスを志す人のために〉

- (4) 神経心理学を志す人に薦めたい名著 — 平山恵造著『神経症候学』……………河村 満・300(3)

〈臨床神経学プロムナード — 60 余年を顧みて〉

- (11) CT・MRI 検査の出現。その光と蔭……………平山 恵造・110(1)

- (12) 無言野 (silent area) の盛衰と神経心理学 (neuropsychology) の発展 — 大脳連合野における展開……………平山 恵造・198(2)
- (13) 脊髄性進行性筋萎縮症 (SPMA) [成人, 非遺伝性] と脊髄性筋萎縮症 (SMA) [小児・青年, 遺伝性] の歴史的プロムナード: 呼称の類似が誤解を産む……………平山 恵造・302(3)
- (14) 視覚性運動失調 (ataxic optique<F>) をめぐって:
(1) 実体験 (2) 本邦紹介 (3) エピローグ……………平山 恵造・404(4)
- (15) 母指／母趾さがし試験 (真の深部感覚の検査法): 自己固有感覚性定位とは／その手技のポイント……………平山 恵造・721(5)
- (16) Cluster headache は群発頭痛と訳されるが, 「head」は頸より上全体を指す「首」である — 病名呼称の難しさ……………平山 恵造・822(6)
- (17) 「脊髄性間歇性跛行」をめぐって: 本邦初報告から久しく絶えた (1929～1967) 意外な理由……………平山 恵造・942(7)
- (18) Guillain-Barré 症候群 (GBS) の知られざる歴史的展開 — (1) 注目されなかった半世紀 (2) 誤解と共に広がる (3) 「syndrome」とは……………平山 恵造・1037(8)
- (19) 神経内科看護は特有な看護体系である — 内科看護, 外科看護とは異なる第三の看護……………平山 恵造・1140(9)
- (20) 「日本神経治療学会」のユニークな発足 — 「神経内科治療研究会」から移行の背景……………平山 恵造・1224(10)
- (21) 「神経学用語集」の改訂 (第2版) を理事長に進言 — ブーメランの如く委員長を命ぜられる……………平山 恵造・1314(11)
- (22) (最終回) 人名語 eponyme さまざま, それは何故使われるか — それぞれに歴史や背景がある……………平山 恵造・1423(12)

【対 談】

- Aducanumab — アルツハイマー病診療にもたらすインパクト……………栗田 主一・岩坪 威・79(1)